

男娼を拾う話

人斬り女侍が

たまごまつり



Presented by
Tamagomatsuri

初夜



江戸時代
初期：

くたばれ
げろ
下郎：





かねめもの
金目の物は
うばわれ

※男声

次はカラダを
危うくの処ところっ

この御恩ごおんはっ



はっ！
その方ほう
男娼だんしょうか！

声以外
女にしか
見えぬ？

!!



だんしょう
男娼

なんしよく
男色の客と
寝る男の職

歳も17ゆえ

※かげまちやや
陰間茶屋も
追い出され：

※男色向け遊郭の
ような場所

スワッ

さいちゅう
その最中の
おことば
その御言葉：
心も救われまする





……もしや
おなご扱いが
あつか
嬉しいのか？

ス



とり
あえず

うら
面白
き
生物

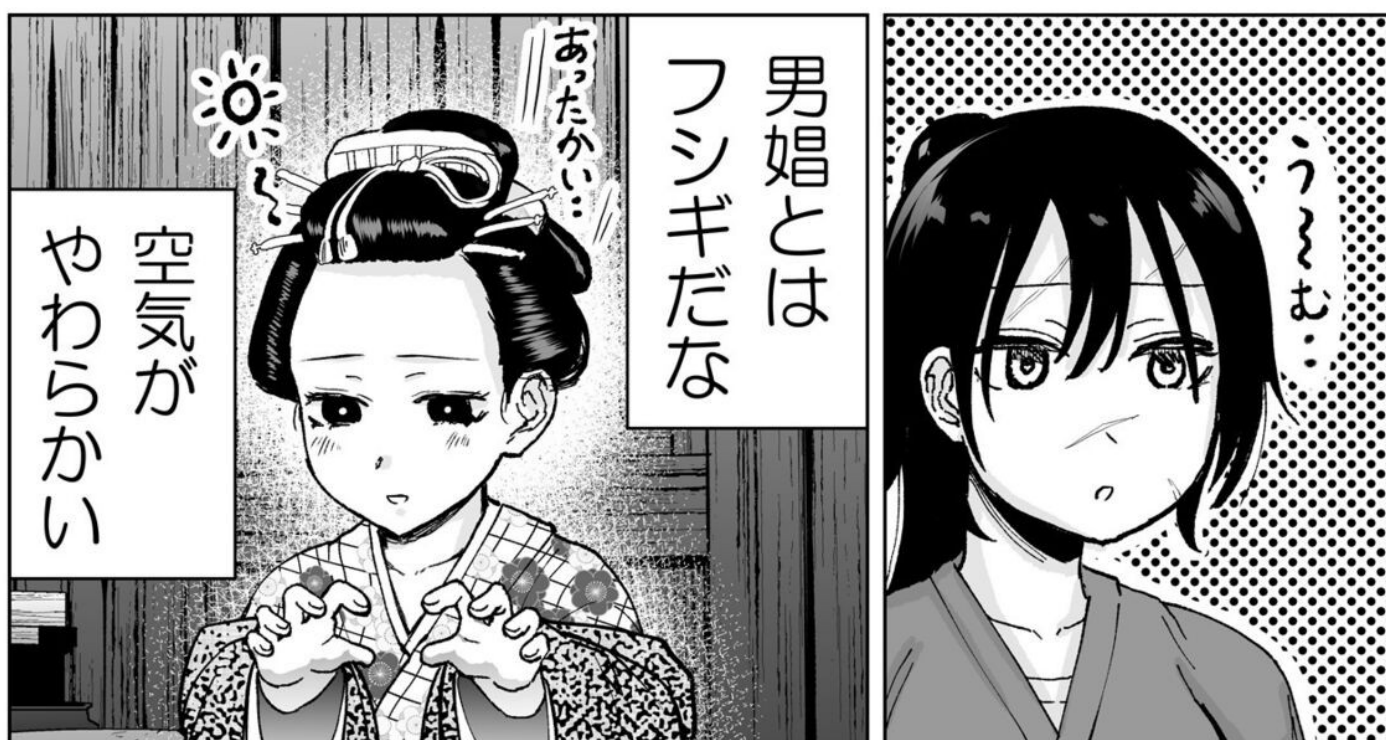
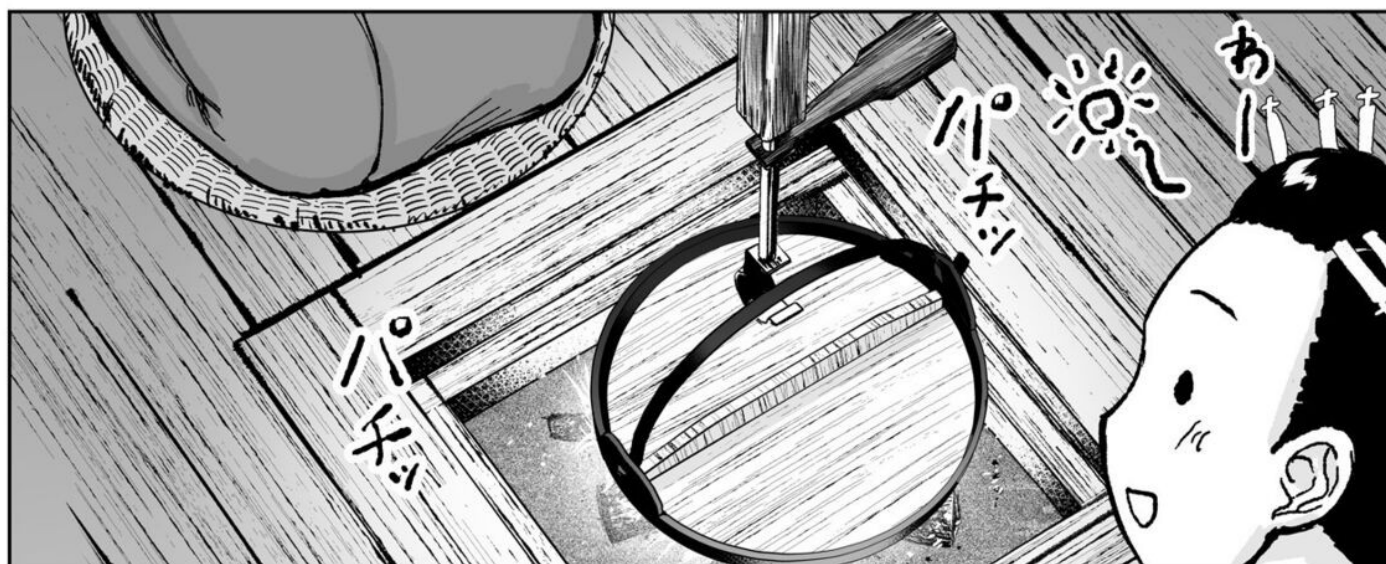


えへっ
えへっ



！

我が家に
行くか？



師匠とは
このような
空気など

終^っぞ生まれ
なんだのに

男色は

「高尚で
芸術的」

と
聞くが…

なるほど…

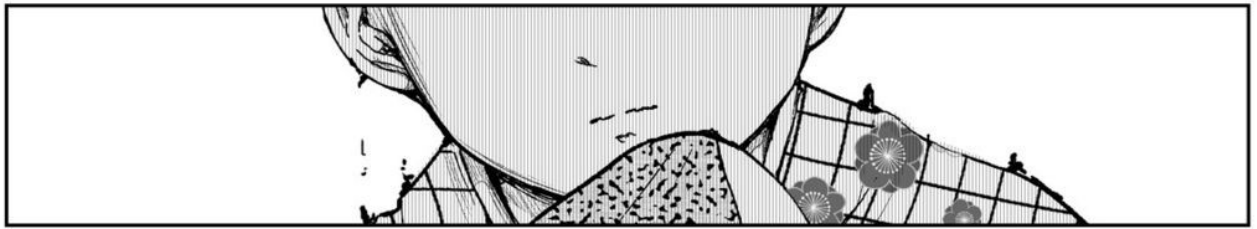
あのっ

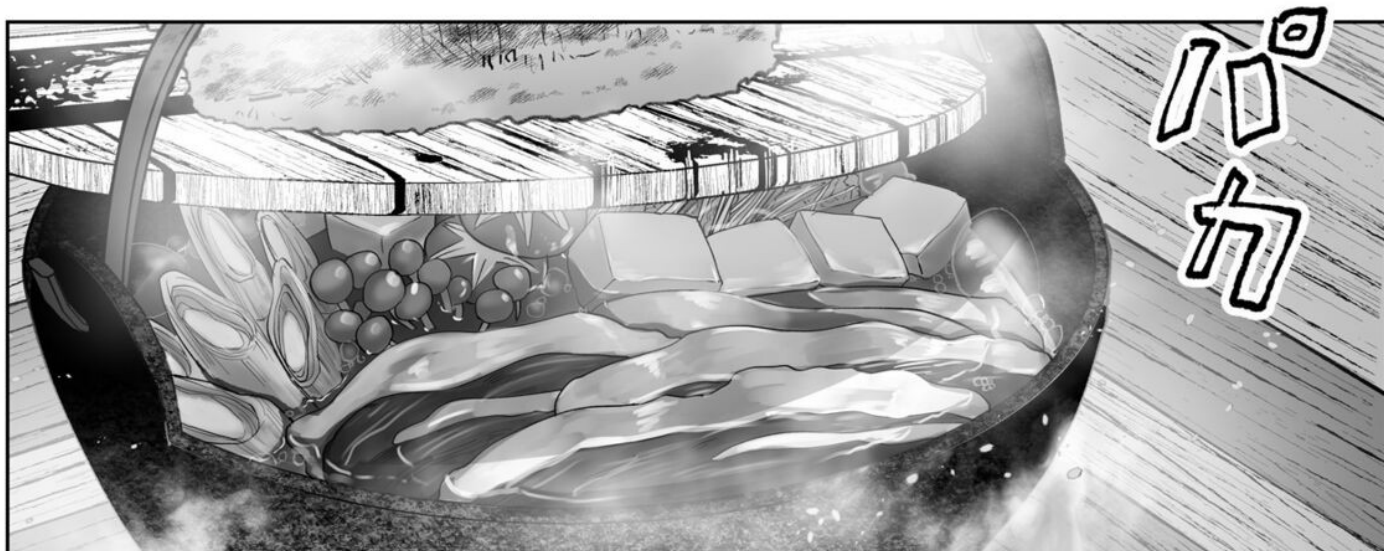
…



※そういふわけでは







拙者も
理外の身ゆえ

興が乗り
問うてみた
だけのこと

侘びだ
食え…

…っ

ゴクッ



…行くアテも
無いならば

拙者が拾^{ひろ}うて
やろうか？





ふうっ

そなた
其方の気が
伝染った

ちこ
近う寄れ



あっ
ありがたき
しあわせ...っ

で...
り...
まするっ

人斬り女侍が男娼を拾う話

ふっ

人肌は
あたたかいな

このために
子供を宿す
気持ちもわかる

江戸時代初期は
掛け布団が無く
人肌で暖め
あったという



お侍様



陰間^{かげま}は



こどもや
陰間屋^{べっしよう}の
別称^{べっしよう}が
ございませう



うっ

いじらしい
こども
陰間も
いたものだな



ほお

※金^{かね}マラは
あたた
いっそう
暖かし

※ちんちんの事



きき

ふむ

存外^{しゅがい}手淫^{ていん}に
慣れておらぬか？

はっ

はっ

はっ

ほう
奉ずりは
すれど
逆はっ

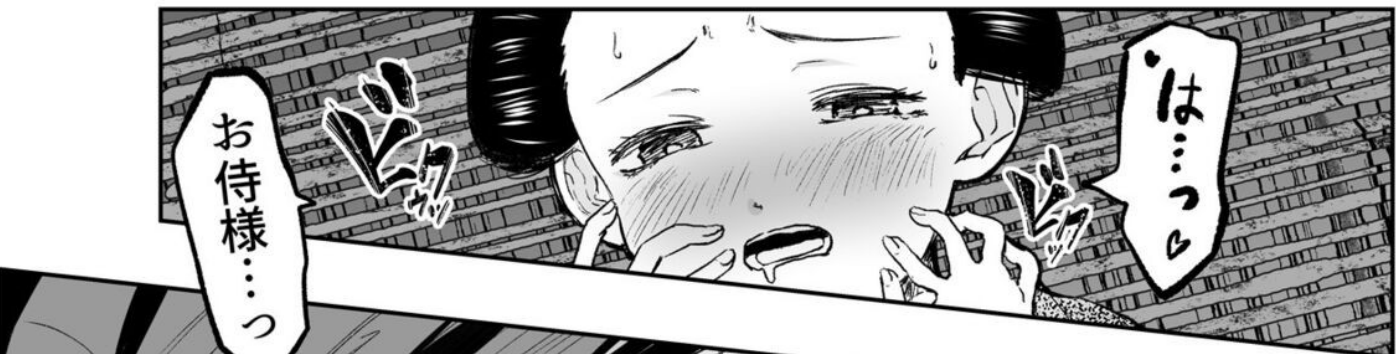
はっ

はっ

なるほど
成程な…



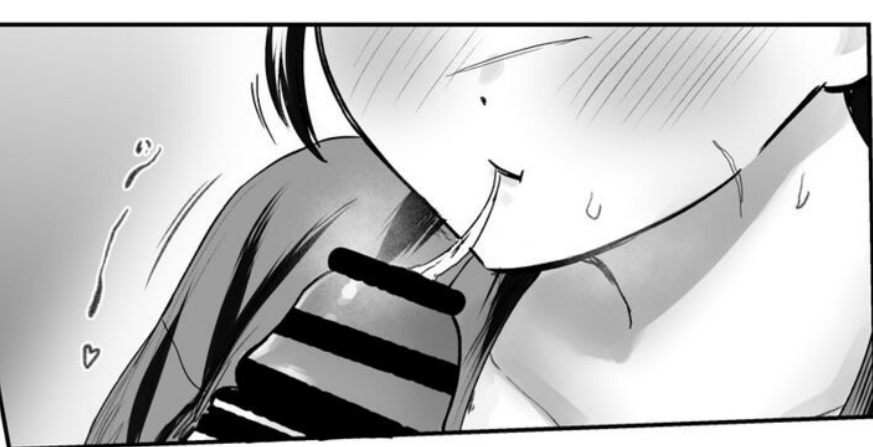
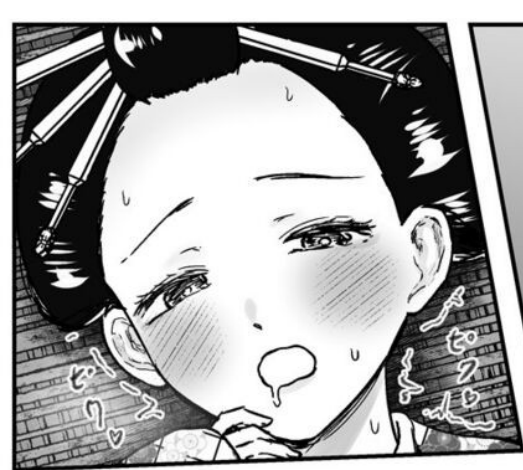














身体が
火照ってきたわ

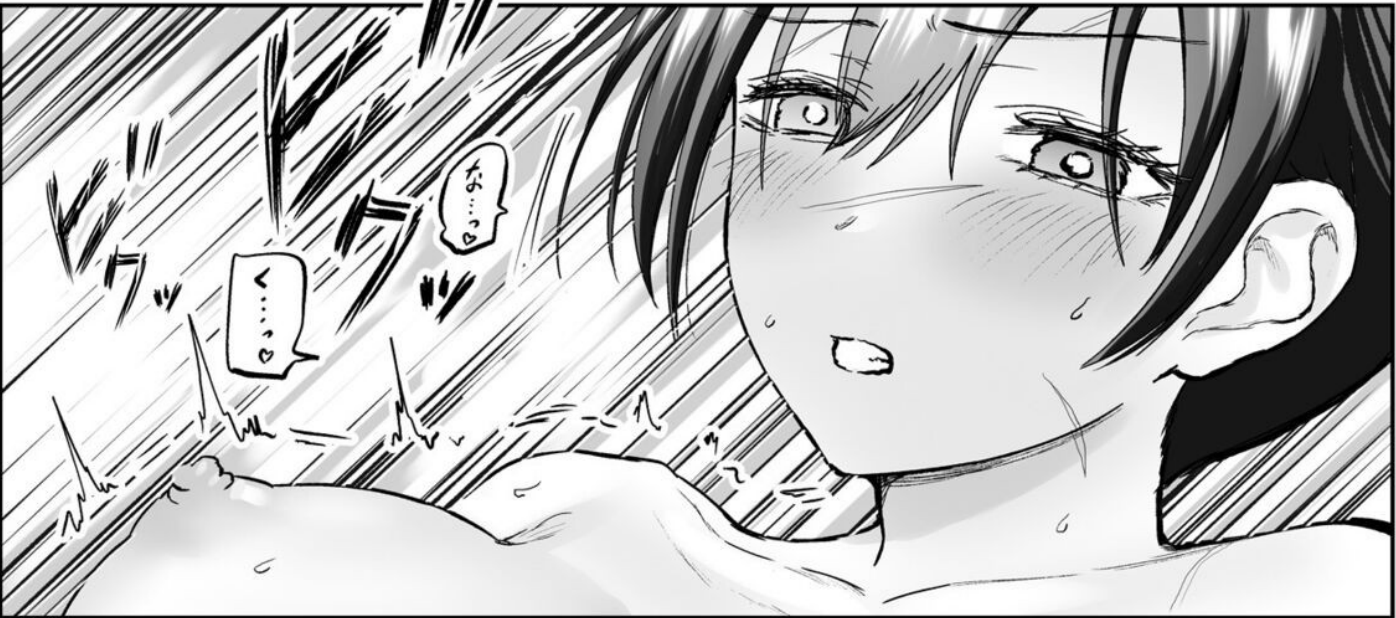
しゅわ

しゅわ...♡

しゅわ

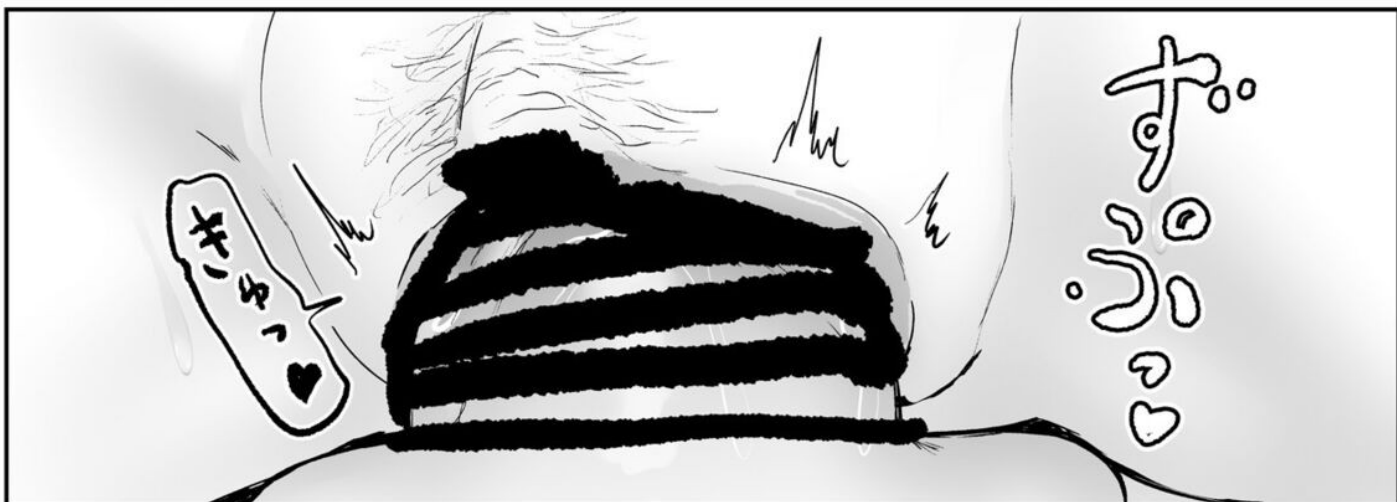
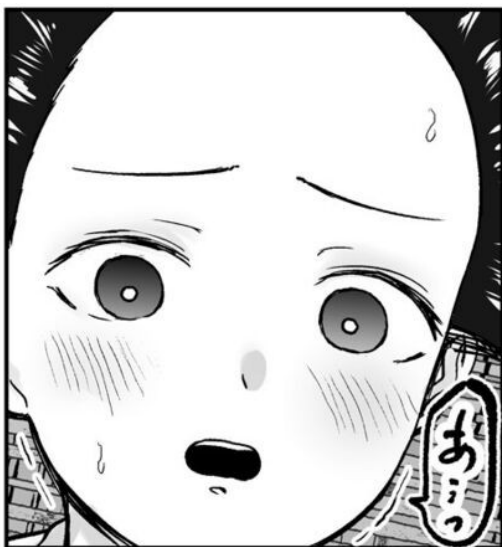
ぬき



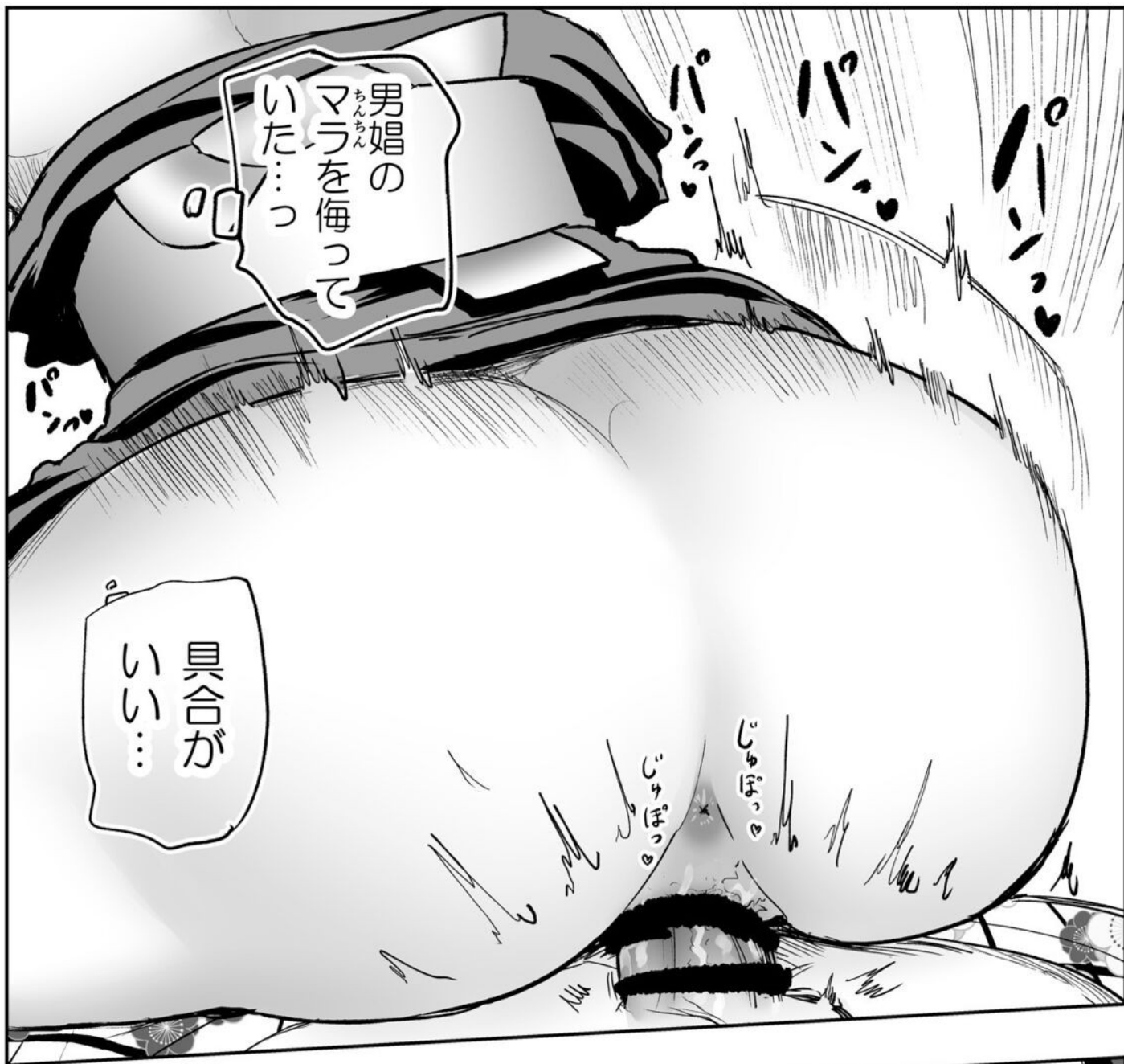










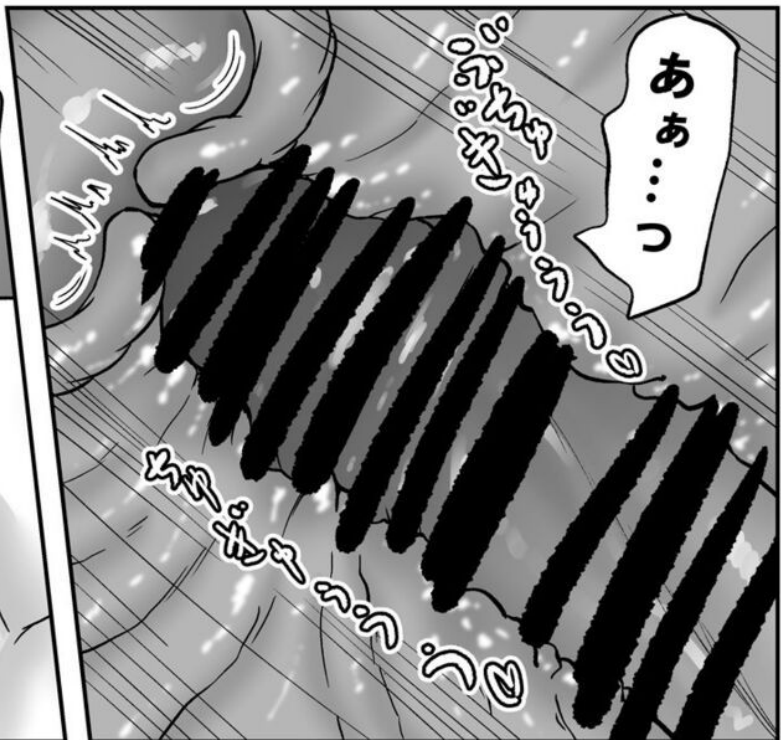
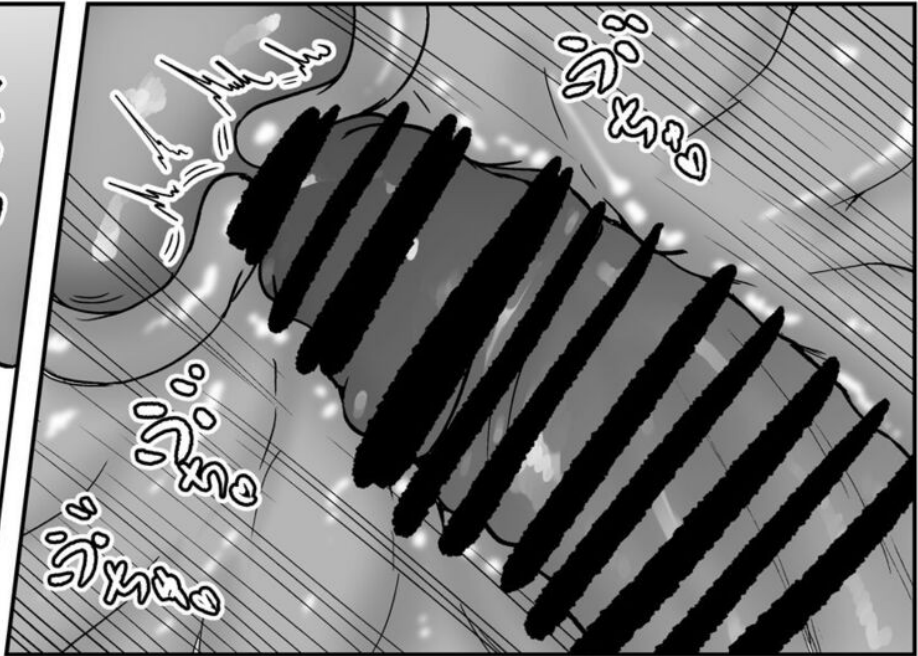
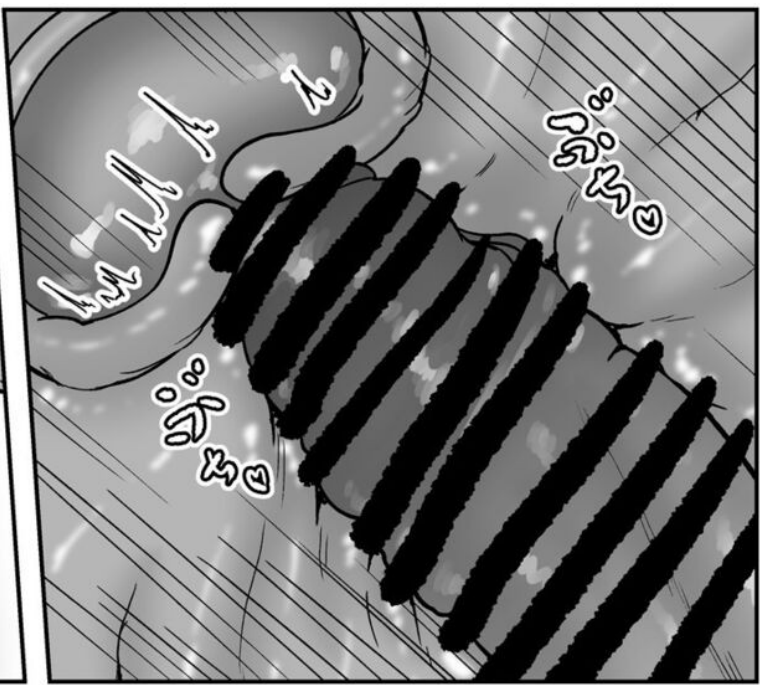
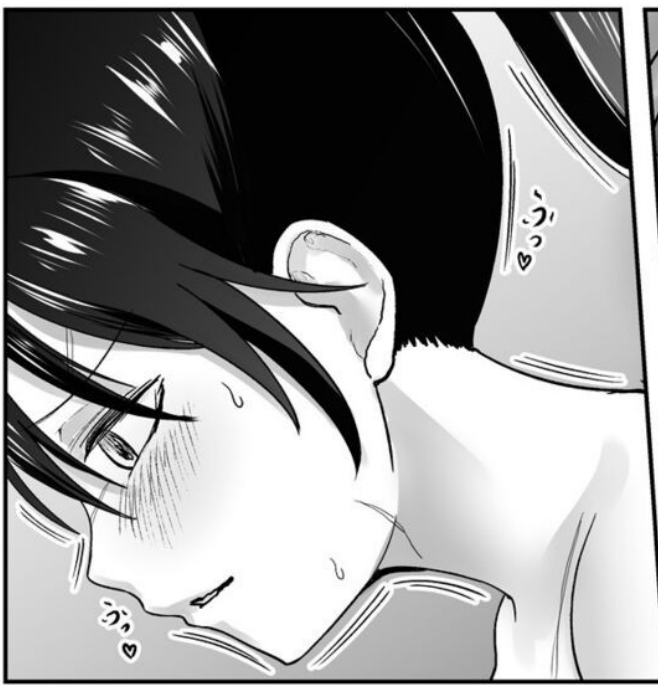




自ら慰めては
いたが…

弱くなった
ものだ……っ













おっ
おっ
おっ

ああ！

久方ぶりに

注がれていく...

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

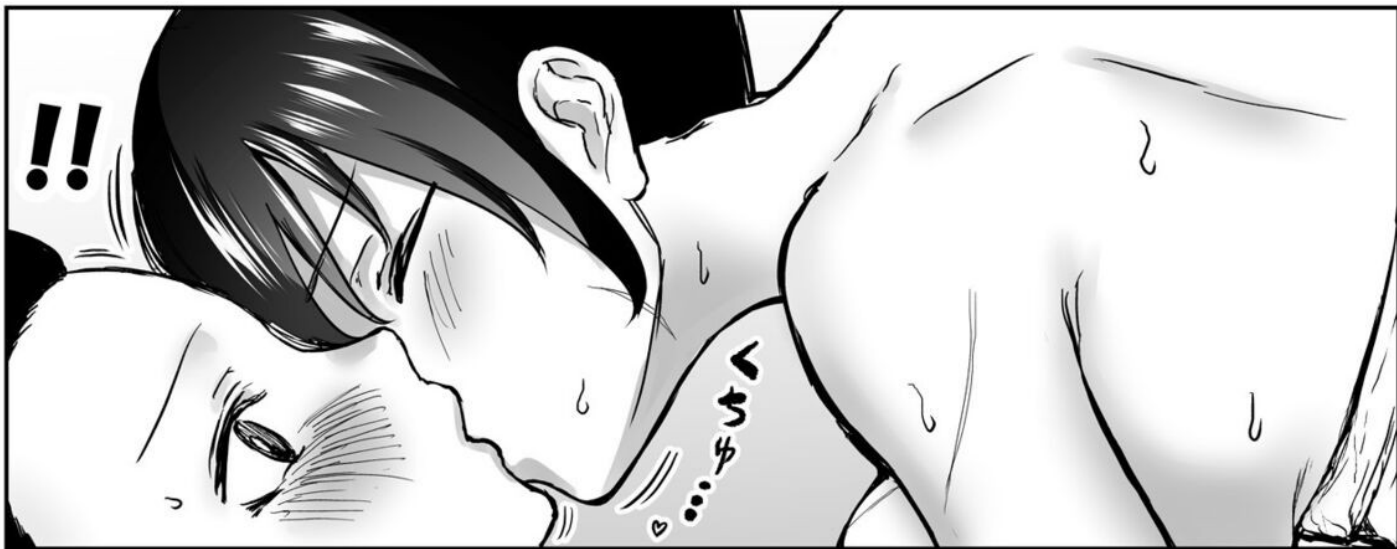
お侍様…

な…
なんだ…?
っ！っ！

トポッ

私…
お侍様を…

お慕^{した}いしても…
宜^{よろ}しいですか…?



続きはX等で描く予定です。
本書を最後までお付き合いいただき
ありがとうございました。



発行日2024/07/16

発行元/たまごまつり

発行人/小祭たまご→x(@komaturi1)

発行人(作者)連絡先/→aakaroro@gmail.com

仕上げ&背景アシスタント/凧澤様→x (@iganagi)